

RDSの料金体系

- DBインスタンス (\$/時間)
 - 1 時間単位で利用可能
 - ライセンス込み or BYOL (Oracle, SQL Serverのみ)
 - DBエンジン種類、マルチAZ化の有無で費用が変わる
- ストレージ
 - ストレージ容量 (\$/GB/月) とI/O料金
 - ストレージ種類 (GP2, PIOPS, Magnetic) で単価が変わる
 - I/Oリクエスト数 (Magneticのみ)
 - プロビジョン済みIOPS (PIOPSのみ)
 - マルチAZ化の有無で費用が変わる
 - バックアップストレージ容量 (\$/GB/月)
 - データベースストレージ合計の100%までは無料
- データ転送
 - 別のAWSリージョンへのデータ送信 (\$/GB)
 - インターネットへのデータ送信 (\$/GB)

* Amazon Auroraは課金体系や料金が異なる

SQL Server	ライセンス込み	BYOL
Express	○ (無料)	
Web	○	
SE	○	○
EE	○ ※1	○

※1 SQL Server EEの「ライセンス込み」はVirginia, Oregon, Irelandリージョンでのみ可能

Oracle	ライセンス込み	BYOL
SE1	○ (11g)	○ (11g) ※2
SE2	○ (12c)	○ (12c)
SE		○ (11g) ※2
EE		○ (11g/12c)

※2 SE1/SEのライセンス販売は終了済み